

第9章

地域ケア個別会議での歯科衛生士の役割

富田 基子

公益社団法人東京都歯科衛生士会顧問

第9章 地域ケア個別会議での歯科衛生士の役割

本科目の目標

- ・ 歯科衛生士の専門性を理解する
- ・ 自立支援・介護予防に向けた地域ケア個別会議における歯科衛生士の役割を理解する
- ・ 歯科衛生士が着目すべきポイントについて理解する
- ・ 歯科衛生士の視点からみた生活課題の明確化と背景要因の確認について理解する
- ・ 自立支援・介護予防に向けた地域ケア個別会議における歯科衛生士からの助言・提案のポイントについて理解する

1 歯科衛生士の専門性

(1) 歯科衛生士とは

昭和33年に歯科衛生士法が制定されましたが、当時は歯科疾患の予防の担い手として歯科衛生士が誕生しました。その後、昭和30年に法改正がなされ歯科診療補助の業務が加わり、さらに平成元年に歯科保健指導が加わることになりました。そして、歯科衛生士の三大業務となって現在に至っています。

歯科衛生士の三大業務とは、以下のとおりです。

- ・ 予防歯科業務
- ・ 歯科診療補助
- ・ 歯科保健指導

<図表9-1> 歯科衛生士法（抜粋）

[歯科衛生士法第二条第一項]

「歯科衛生士」とは、厚生労働大臣の免許を受けて、歯科医師 歯科医業をなすことのできる医師を含む。以下同じ。）の指導の下に、歯牙及び口腔くうの疾患の予防処置として次に掲げる行為を行うことを業とする者をいう

- 一 歯牙露出面及び正常な歯茎の遊離縁下の付着物及び沈着物を機械的操作によつて除去すること
- 二 歯牙及び口腔くうに対して薬物を塗布すること

[歯科衛生士法第二条第二項]

歯科衛生士は、（中略）歯科診療の補助をなすことを業とすることができる

[歯科衛生士法第二条第三項]

歯科衛生士は、前二項に規定する業務のほか、歯科衛生士の名称を用いて、歯科保健指導をなすことを業とすることができる

(2) 口腔健康管理の必要性と歯科衛生士の役割

住み慣れた地域で、その人らしく、健やかな生活を営むためには、食べる、話す、呼吸をする等の役割を果たす口腔の健康の維持は非常に重要です。また、近年、口腔内細菌と全身疾患の関わりや、口腔機能低下がもたらす認知症や運動機能、生活機能等の関連が示され、歯科口腔保健の重要性が増してきています。

専門的な立場から、口腔の問題点を明らかにし、的確な保健医療福祉サービスを提供することは、歯科衛生士の重要な役割です。

(3) 高齢期における口腔健康管理

高齢期における咀嚼・嚥下機能の特性

高齢期の歯には、様々な特性があります。まず、歯の咬耗・摩耗が挙げられます。歯を喪失し、義歯を装着している方もいます。また、歯周組織や口腔粘膜が衰え、唾液分泌能力や味覚の低下、筋力や神経機能の低下がある場合もあります。歯科衛生士には、高齢期の歯の特性を理解したうえで、その専門性を発揮することが求められます。

口腔機能低下と口腔衛生状態悪化の影響

口腔機能の低下は、むせ、食べこぼし、低栄養・脱水につながります。また、口腔衛生状態が悪くなると、口腔内の細菌が増え、虫歯や歯周病等の口腔疾患が悪化します。口腔内細菌が気管支から肺に入ることにより、誤嚥性肺炎のリスクも高まります。また、口臭が強まる、味覚が低下するなどの影響もあります。

生活への影響

歯の喪失や筋力低下により咀嚼機能が低下すると、栄養摂取の偏りが生じ、体重減少につながることがあります。また、食品に含まれる繊維質が摂取しにくくなり便秘になる場合や、早食いになり過体重になる場合もあります。嚥下機能の低下によって、口が乾きやすく、飲み込みにくくなるため、水分や食事を制限してしまう場合もあります。

2 自立支援・介護予防に向けた地域ケア個別会議における歯科衛生士の役割

「歯科衛生士は、口腔衛生や咀嚼等の食べ方を支援する観点からの助言を行います。」
(厚生労働省『介護予防活動普及展開事業 専門職向け手引きVer.1』)

歯科衛生士に求められる視点と、助言・提案を行うための手順は以下のとおりです。

(1) 歯科衛生士に求められる視点

口腔の清潔保持、咀嚼など食べ方を支援するための助言・提案を行います。また、必要に応じ、事前にかかりつけ歯科医師と緊密な連携を図り、助言・提案につなげます。

(2) 助言・提案を行うための手順

まず、情報収集をします。事例の理解と確認を行い、ケアマネジメント及びアセスメント情報から歯科衛生士が着目すべきポイントを把握します。(歯科衛生士が着目すべきポイントについては、「 3 」に記載のとおり)

次に、要因分析をします。歯科衛生士の視点から、生活課題の明確化と背景要因の確認を行います。(歯科衛生士の視点からみた生活課題の明確化と背景要因の確認については、「 4 」に記載のとおり)

そして、口腔関連の支援内容等について助言や提案をします。(歯科衛生士からの助言・提案のポイントについては、「 5 」に記載のとおり)

3 歯科衛生士が着目すべきポイント

(1) 全身状態の確認

助言にあたっては、口腔内の状態だけではなく、全身の状態を把握する視点が重要です。例えば、認知機能に問題があると、口腔に違和感があることが食事をとらないなど違う形で現れることがあります。また、加齢や疾患による視力の低下があると口の中が見えづらく歯ブラシの当たりが不適切となり、口腔衛生に問題が生じていることも考えられます。

(2) ADL (手段的日常生活動作) の状況

その方の生活の状況を把握することも重要です。例えば、献立の内容あるいは調理方法に偏りがあるため、口腔の問題につながっている場合が考えられます。

すべての会議資料を参照し状況を把握しますが、特に、「基本チェックリスト」の口腔に関する3つの項目は確認が必要です。

・基本チェックリスト (口腔に関する項目抜粋)

No. 13 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか

No. 14 お茶や汁物等でむせることがありますか

No. 15 口の湯きが気になりますか

(3) 社会参加の状況

社会参加の観点から、その方の状況を把握することも重要です。例えば、入れ歯が合わない、口臭がするなど口腔の問題により、対人関係を苦にすることも考えられます。

4 歯科衛生士の視点からみた生活課題の明確化と背景要因の確認

(1) 口腔衛生状況の確認

歯磨きができているか確認します。歯間ブラシ・デンタルフロス等の補助用具を組み合わせて使用し、歯磨きを適切に行うことで、長年機能する歯を維持することが可能です。

(2) 食べ方 (食内容・食形態) の確認

食事の内容やタイミング、誰と食べているかなどを確認します。

(3) 食べ方 (咀嚼・嚥下状況) の確認

咀嚼や飲み込みの状況を確認します。

(4) 歯科医療の必要性の有無

歯科医療の必要はあるか、かかりつけの歯科医師はいるかを確認します。

5 自立支援・介護予防に向けた地域ケア個別会議における歯科衛生士からの助言・提案のポイント

(1) 助言・提案のポイント

日常生活における口腔健康管理に関する助言

口腔健康管理の観点から、以下の ような助言・提案を行います。

- ・糖尿病等有病者における口腔清掃の重要性と継続的な支援の必要性
- ・脳卒中罹患者への口腔機能・口腔衛生の重要性と継続的な支援の必要性
- ・転倒、骨折等を繰り返す者への噛み合わせの確認の必要性
- ・微熱を繰り返す者への口腔機能・口腔衛生の重要性と継続的な支援の必要性
- ・栄養状態不良の者への口腔機能・口腔衛生の重要性と継続的な支援の必要性

受診勧告

う蝕や歯周疾患、義歯の未装着や不適合、嚥下・摂食・咀嚼障害がある場合など、歯科医療が必要な方に対しては、歯科診療所・病院への受診や訪問歯科診療による受診を勧告します。かかりつけ歯科医師を持つことは非常に重要です。

適切な支援内容の提案

各区市町村や地域住民等が実施する口腔機能向上や口腔衛生の改善に関する取組への参加について、助言・提案します。

(2) 会議における質問及び助言・提案の例 (職種名 : 歯科衛生士)

【事例】

本人の状態像

	75歳 男性 要支援1 J2 独居
本人の希望	息苦しさや視力の低下、つまづくようになってきたが、年だからしょうがないと思う。何をすることもおっくうに感じている。
世帯構成・家族	妻が14年前に他界して以来独居。 長男：近県(車で1時間)在住。共働。週末時々手伝いに来訪。同居は困難。子供(受験生)が1人。 次男：他県(車で3時間)在住。遠方の為、介護に関わるのは難しい。
性格	元々は社交的なので、包括職員等とは冗談を交えて話ができる。以前は友人と囲碁を楽しんでいた。今後も囲碁をしてみたいと思っている。体操にも興味がある。
お仕事	無職 定年(60歳)まで建設会社で現場監督をしていた。
病気 (現病および既往)	慢性閉塞性肺疾患(2年前の7月・治療継続中)、高血圧不整脈(2年前の12月・経過観察中) 肺炎(3年前の2月・経過観察中)、肺炎(3年前の1月・入院)
体の調子	息苦しさが増えてきている。家の中は家具につかまり移動し、階段は手すりを使う。 自転車で乗りコンビニ弁当を2食分購入して、3回に分けて食べている。便秘気味。 寝付きが悪く夜中に目を覚ますことも多い。自覚は無い様だが、咳込み、痰、口臭が気になる。 半年前に比べて固いものが食べにくくなったと感じている。
BMI	17.3(身長170cm 体重50kg)
現在主に利用しているサービス	なし
現在の経済状況と収入	収入：厚生年金(月17万円) 団地の3階に居住

質問の例

歯は何本ありますか、といった基本的な質問も有効です。高齢者の口腔の状態については、義歯を装着していることすら家族が把握していない場合もあります。口腔の状態が咀嚼するうえでどの程度可能な状況なのかを知るように努めます。

この方の場合は、半年前に比べて固いものが食べにくくなったという自覚がありますので、今現在食べているコンビニのお弁当でも感じることはありませんか、と質問します。また、むせることもありますか、口の湯きも感じますかなどの質問もします。

助言・提案の例

食事の内容が、噛みやすい食材に偏っているため、栄養のバランスを整える内容に改善することが必要です。入れ歯の調整が必要であると同時に、口臭があるのであれば歯周疾患の検査も必要です。また、口腔周囲筋の衰え、嚥下機能の低下の症状が見られ口腔機能低下症も疑われます。早めの歯科受診をお勧めします。

また、体操にご興味があるので、自治体で行っている教室に参加され、お口の体操・口腔清掃の術式を習得されることをお勧めします。嚥下力の低下は肺炎のリスクを高めます。肺疾患を有していることもあり、口腔清掃の必要を理解され適切な口腔清掃を行うことが必要です。爽やかな口腔で、教室に参加し、皆さんと会話を楽しんでいただければいいでしょう。

